



10.26 (土)
木林の読書室 with 箱根市
浅間公園にて

10.1 (火) ~ 31 (木)
てんぐとひょうたん Vol.2

特
マークのあるお店を利用して、チラシを提示すると特典が受けられるよ。

セ
このチラシのセマークのお店にはセピアコレクション! 詳しくは裏面へ

箱根 宮ノ下まんぼ

MIYANOSHITA SANPO

VOL.03 2013/10/19(土)~10/27(日)

宮ノ下への行き方 How to Go!!

- 箱根登山線・宮ノ下駅下車
- 箱根湯本駅→箱根登山線(強羅行)27分
- (箱根湯本駅まで)
- 小田原駅→箱根登山線15分
- 新宿駅→小田急線(箱根湯本行)115分
- 東京駅→JR東海道線・箱根登山線105分

箱根 宮ノ下さんぽ Vol.3

MIYANOSHITA SANPO

Vol.3

期間:2013年10月19(土)~27(日)
企画:宮ノ下さんぽ実行委員会、宮ノ下商店会
協力:宮ノ下観光協会・宮ノ下温泉旅館組合・
宮ノ下自治会・箱根町
後援:神奈川県産業技術センター工芸技術所

町の中心にあるセピア通り、店々を覗いて歩く。年代物の木彫りのおもちゃや看板、柱時計、古道具たち…一体いつからここにあるのか。時の流れが込みこんだ味わい深い木目の色、鈍く淡く光る金属、うっかり触れてみたくなる。通りに面する写真館。ショーウィンドウに飾られているのは、ここを訪れた人々の顔。チャップリン、ヘレンケラー、三島由紀夫にジョンレノン…。ああ、写真はその時を留めることができるのだ、遙か昔の出来事をも…。では、時を繋げるものはなんだろう…。それは過去から今ここに存在する、モノ、そして人なのだ。深呼吸してみる。今ここに僕がいるまでに、この町であった出来事たちを、吸い込んでみたくなったのだ。

セピア写真が一世を風靡した明治初期から昭和30年代、それは宮ノ下がとても華やかであった時代とも重なります。この頃から現存する「モノ」たちを店々のショーケースに並べました。ウィンドウ散歩もよし、一步店に足を踏み入れれば、宮ノ下の「語りべ」たちにも会えること請け合いです。懐古主義と言われてもいい…やっぱり昔のモノって良いもの、好きだもの…。「想いにふける」そんなセピアな時間がここ宮ノ下にはあるのです。

特のあるお店を利用して、チラシを提示すると特典が受けられるよ。



sepia correction セピアコレクション

セピア色の写真が似合う街 宮ノ下。

街を歩くと、英語で書かれた古い看板やショーケースの中の骨董品など、セピアな時代の片鱗がそこそこ見られます。

そういった目に見える風景もさることながら、写真機や、八百屋さんの包丁、道ばたのただのガードレールだって、今は埃にまみれているけれど、セピアな時代から生きて来たドラマがあるので、そんなセピア色の写真から抜け出したお宝を、

「宮ノ下セピアコレクション」と称して期間中、宮ノ下のあちこちに展示します。あなたの知らない宮ノ下に出会える9日間、地図を片手にプチタイムトリップを楽しんでみてはいかがでしょうか。



観光案内所
「ワインの栓をするおもちゃ」

観光案内所

「日本初の国産ワイン特約店の看板」



箱根光喜号
「日宮ノ下郵便局の金庫の紋章」

いろり家
「かえるのおもちゃ」



※こちらはコレクションの一部です。

◆セピアコレクション参加店◆

宮ノ下食堂森メシ / NARAYA CAFE / ソラアンナ / コーヒーハウス あん / 観光案内所 / 小林商店 / 嶋写真店 / マダムスン / 山田屋 / カフェ・ド・モトナミ / すぎやま / 江戸商店 / 箱根光喜号 / 山崎屋 / 光栄堂 / スペース福 / ラバツア / 渡邊ペーカリー / 魚浦商店 / 金子クリーニング / つたや / 函嶺 / 芝商店 / えだえり客店 / 大和屋商店 / いろり屋 / 他

※このチラシのマークのお店にはセピアコレクション! お店の場所はマップ面をご確認ください。

編集後記

宮ノ下さんぽ、三年目。この地に通う季節がやってきたなと思っていた最中、ある方の訃報が届きました。第一回目に取材した、骨董「江戸商店」の店主「井上愛子さん」のものでした。取材当時 87 歳、ご主人を亡くしてから一人でお店を守り続けてきた愛子さんは、江戸っ子気質で凛としてお話を聞いているとこちらの背すじが伸びるような方。ちょっと前にもお元気そうだったので、こういうことはやはり突然訪れるのかと残念に思いました。お通夜は常泉寺で行われ、その場の雰囲気がとても和やかで温かかったのが印象的でした。愛子さんの天寿に敬意を示し、寂しさと供に見送っているような…少なくとも私はそんな心持でまだ明るい夕方の、宮ノ下の空を見上げていました。

出会いがあるから別れもある。寂しいけれど出会いがなければもっと寂しい。人・モノ・事・そして時間…色んな出会いを宮ノ下でも見つけて欲しいと思います。
宮さん制作委員会 (T)

宮ノ下の語りべ 小林商店 宮川宏子さん



青いセーターがよく似合う存在感のある男子学生が、大きな目で私を見つめながらいった。「君が、宮川宏子さん？」(日本文芸家クラブ「文芸随筆」より)

「わが心の兄一寺山修司」というエッセイの一節である。その宏子さんの家は格天井に白壁の店。色鮮やかなコケシたちや木工作品が並ぶ。丁度外国の客があり、箱根細工の秘密箱について流暢な英語で説明する女性がいた。横で眺めていると、こちらに語りかけてきてくれた。46年前サンフランシスコのYWCAで墨絵を教えていた宮川宏子さんは、江戸前期から木象嵌や寄木の弟子連を育ててきた「小林商店」の守り人だ。東宮職御用として作った2メートルに及ぶ算盤や飾り棚は、日本でこの家のみの木象嵌で、最短で20年の修行を必要とした。皇室や宮家みものそれらの品は、繊細で気品のある芸術品であり、その価値は計り知れない。

高校までは母の実家のこの家で育ったが、小学生の頃から新聞や雑誌に作品が載っていた。早稲田大学に入学してすぐ早稲田詩人会に入り、天才歌人寺山修司と出会った。

すでに歌壇で名を成していた彼を知らぬものはいなかったが、彼が知っていた唯一の新入生は宏子さんだけだった。その人はトランクいっぱい原稿用紙をつめて宮ノ下にやってきた。宏子さんの母を慕い、一週間宮ノ下に、食事も共に楽しんだ。「ピコは妹だヨ。恋人はうらぎるけど妹はうらぎらないから」といった彼が47才で亡くなる迄、最も親しい仲だった。一方、早大創設者大隈侯がつくった早大雄弁会にも属し、海部元総理大臣は先輩、故小淵元総理は後輩にあたり、政治家、学者、法律家など宏子さんの交友関係は広い。

それが「心の財産だ」と
今でもエッセイや詩は書き続けている。澄みきった優しさ、そして時に情熱的な言葉たちは、宏子さんそのものだ。自身を「語りべ」でありたいという。家の歴史から箱根の歴史までどこでも広がり続けるが、それでいて懐かしいあたたかなお話は、心に留めておきたいと思つた。

かわら版制作:宮さん制作委員会
宮ノ下さんぽBlog: <http://miyanoshitasanpo.blog.fc2.com/>

歴史探訪

—宮ノ下まちあるき—

宮ノ下に残る旧跡の数々を学芸員の解説付きで巡ってみませんか。



【開催日】2013年10月24日(木)

受付:9:30~10:00(宮ノ下駅前)

募集定員:20名

料金:4,000円

(富士屋ホテル昼食代、保険代、資料代)

※募集開始は9月を予定しています。

詳しくは下記までお問い合わせください。

問い合わせ先:0460-85-7601

箱根町教育委員会生涯学習課文化財係まで

浅間公園

箱根登山線沿いの小さな公園に木のベンチと古本が並びます。森の中の静かな読書室。一箱古本市も同時開催、参加者も募集中!

詳しくはブログにて…
<http://miyanoshitasanpo.blog.fc2.com/>

【開催日】2013年10月26日(土)

【会場】浅間公園(駅徒歩3分、町営駐車場上)

時間:11:00~16:00

Exhibition 作品展

フォトコンテスト

今年の募集テーマは、「宮ノ下のお気に入り」。ご応募いただいた写真は、イベント期間中、スペース福で展示させていただきます。優秀者にはホテルの宿泊券やランチ+温泉券などプレゼント! ぜひご応募ください!

【応募期間】

2013年7月1日(月)~9月30日(月)(消印有効)

○募集テーマ:わたしの「宮ノ下のお気に入り」

※宮ノ下で撮影した写真に限り。風景・人物など

対象物は問いません。

【応募先】

〒250-0404 神奈川県足柄下郡箱根町宮ノ下372

嶋写真店内「箱根宮ノ下フォトコンテスト実行委員会」

宮ノ下温泉HP内 申込みフォームURL

<http://www.miyanoshita.com/gallery.html>

NARAYA CAFE展示

てんぐとひょうたん Vol.2

陶芸家 丹羽 健一郎 とイラストレーター 大越 由美子が織りなす、ちょっとポップな陶器の小物やメッセージカード付きアクセサリなどなど。「てんぐのイタズラ」をテーマに、あけて嬉しい、貰ってうれしい、連れて帰るのに楽しい小土産そろいます。

期間:10月1日(火)-10月31日(木)

【会場】ならやあん NARAYA CAFE内

営業時間:10:30~18:00 定休日:水曜日・第4木曜日